

第三十七回福島県建築文化賞表彰式 審査講評

と き 令和四年二月九日（水）

午前十時三十分から

ところ 民報ビル ロイヤルホール

福島県建築文化賞審査委員長 長澤悟

第三十七回福島県建築文化賞の審査講評につきまして、御報告申し上げます。

正賞の『須賀川市民交流センター tette』は、図書館を中心として公民館、子育て施設、ミュージアムを複合した市民誰にも開かれた活動・交流施設です。街路整備が進められてきた表通りを引き込む tette 通りと名付けられた通り抜け空間は、それ自体が街と言えます。各フロアを一体化した吹抜けのダイナミックな空間の中に、様々な場・家具が用意され、人々は思い思いの場所で過ごします。市民参加のワークショップを重ねた計画プロセス、市民一体となった運営と合わせ、高く評価されます。

準賞の『スマートシティ AiCT』は、歴史を重ねた城下町に、未来に向けた拠点となるよう構想された、ICT 関連事業やベンチャー企業が入居するオフィスビルです。桜並木や酒蔵など、敷地周辺の景観要素を生かし、市民にその価値を再認識させると共に、企業誘致の力としても生かしています。街並みにあわせて木造平屋の交流棟を、中庭を挟んで中層のオフィス棟を配置することにより、必要な機能を確保しつつ、地域の活性化と歴史の継承を見事に両立しています。

優秀賞には三点が選ばれました。

『塙町立はなわこども園』は、鉄骨の細い柱と木建具によるシンプルなフレームの棟を S 字形に折り曲げて配置することにより、内外が連続し、また子供の様子が地域からも見える空間配置がユニークです。町の木材と地元の職人の技術により、開放感と温かみのある子どもの場が生み出されています。

『いわきワイナリーガーデンテラス』は、ぶどう畑を見下ろす丘に、周囲の眺望を取り込んで立つ小規模ながら存在感のある木造のワイナリーです。障が

い者の雇用創出や地域活性化を目指す構想が、細部まで神経の行き届いた建築として実現され、この土地が潜在的に持っていた力をも引き出しています。

『広野こども園（ひろぱーく）』は、小さな子どもの育つ場としてスケール感を大切にした建築です。屋根庇の低さと分節された屋根の重なりによる印象的な外観、各部の寸法や開口部のデザイン等、随所に様々な工夫が見られる内部空間があいまって、子どもの世界を創り出しています。

特別部門賞には三点が選ばれました。

『蔵の郵便局（栃窪簡易郵便局）』は、東日本大震災で被害を受けた昭和初期の土蔵を、新たに地域に開かれた郵便局として修復、再生したものです。建築主の思いを受け止め、建築文化の理解、発信、職人技術、実現プロセス等が総合された、関係者の情熱あふれる丁寧な取組は高く評価できます。

『石川町文教福祉複合施設 モトガッコ』は、廃校となった小学校を、公民館、図書館、子育て支援施設等の複合施設として再生したものです。減築して耐震性と解放感を高め、改修部分の的確な判断により学校の記憶を残しています。設計者、支援組織、町民が一丸となった計画プロセスと完成後の運営体制は、廃校利用のモデルとなるものです。

『NIPPONIA 檜山集落』は、築 120 年の蔵と納屋を、自然の中で生活を楽しむ宿泊施設に改修したもので、その着想は関係人口を増やすことにより持続可能な地域づくりにも繋がる可能性を持つものと言えます。周囲の自然景観や元の構造材を生かし、建物・空間をアートとして見せる設計も評価できます。

復興賞には三点が選ばれました。

『みんなの交流館 ならは CANvas』は、避難先から戻った町民が、そこに行けば皆に会える場として構想された交流施設です。周囲に開かれた明るいガラスの箱とダイナミックな木組みの梁に支えられた大屋根が、居心地のよさとシンボル性を実現しています。復興支援の NPO や設計者が、住民と話し合いを重ね、完成後は運営支援を行っていることも高く評価できます。

『葛尾村復興交流館あぜりあ ロハス蔵』は、避難指示解除により帰村する

人々のための復興交流館です。量感のある木造空間が居心地のよい交流の場となると共に、大学との連携により周辺環境の特性や古民家の解体材の利用など様々な地域資源が生かされ、村の風土と歴史を継承する場ともなっています。

『福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校』は、原発事故被災地域の想いを受けて新設された新構想の学園計画です。木造の教室棟、敷地の勾配を生かした低層の建物群が屋外モールを挟んで配置され、多様な交流を生み出す計画となっています。その中心部に図書館と一体に設けられた地域協働スペースは、地域に開かれ、NPOが教育を支援する拠点として未来の学校像を示すものです。

終わりに、惜しくも選外となった応募作品も、それぞれ設置者の想いや、設計者や施工者の建築文化に対する理解をうかがうことができ、見どころのある内容を備えていたことを申し添えまして、審査講評といたします。